

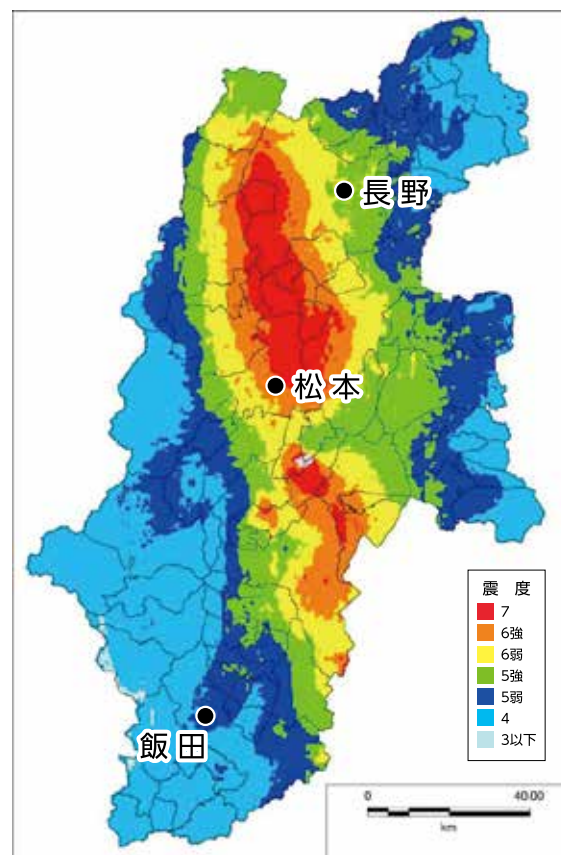
3 これから、どんな災害が起こり得るのか？

大規模地震

平成 27 年（2015 年）、長野県では、県内で起こり得る大規模地震について被害想定調査を行い、その結果を公表しています。

それによると、県内で最も被害をもたらすと想定されているのが「糸魚川ー静岡構造線断層帯の地震」です。また、「南海トラフ地震」が発生した場合、県内では南信地域を中心に被害が予想されています。

糸魚川ー静岡構造線断層帯(全体)の地震



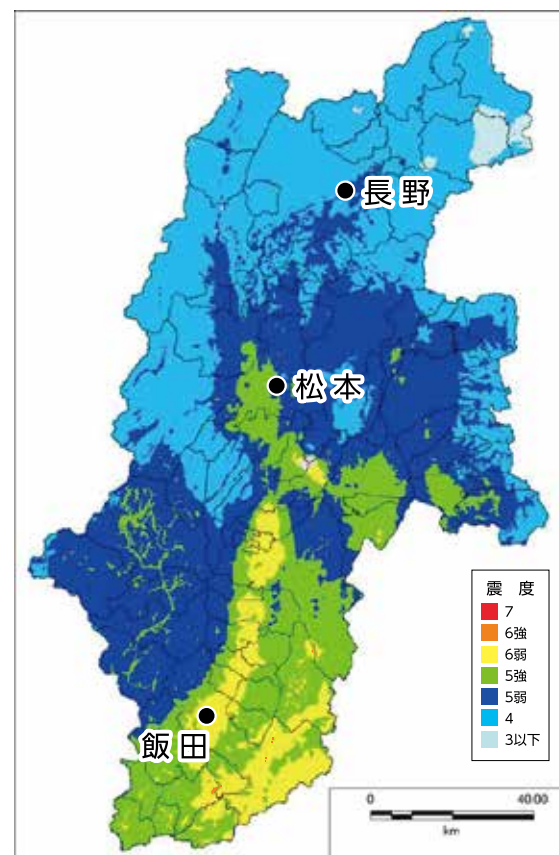
想定される被害の特徴

死者数：約5,600～7,100人
全壊・焼失建物数：約83,000～98,000棟

甚大な被害が発生する地域が、長野県内の広域に分布しています。震度6強以上の揺れの地域も、非常に広範囲に及びます。

30年以内の地震発生確率※
14～30%

南海トラフ地震(陸側ケース)



想定される被害の特徴

死者数：約130～180人
全壊・焼失建物数：約2,200～2,300棟

長野県内では、特に諏訪市で液状化被害が多く発生します。震度6強以上の揺れが想定される地域もあります。

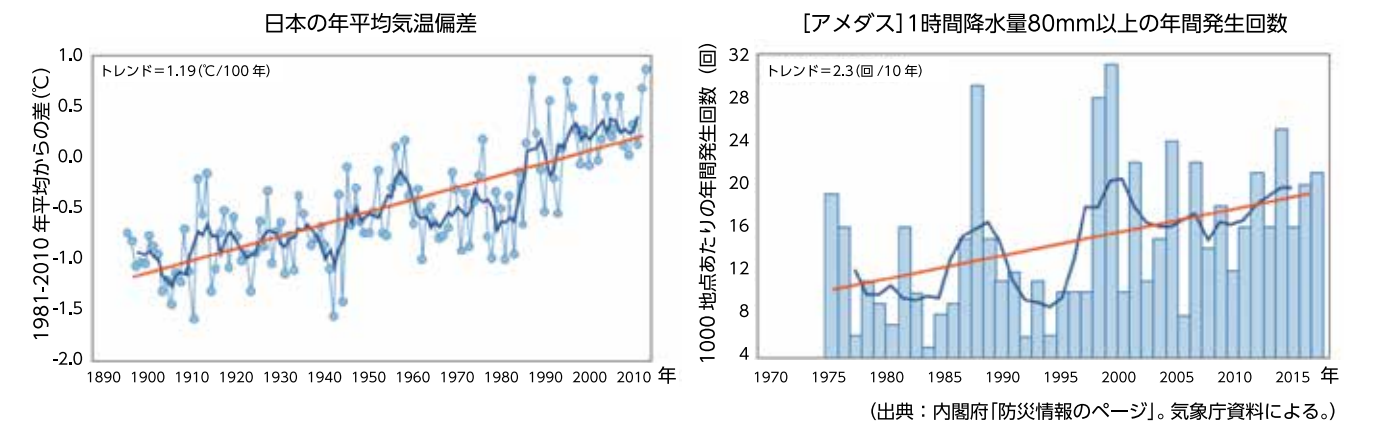
30年以内の地震発生確率※
80%程度

※ 地震発生確率の数値は、政府地震調査研究推進本部の公表結果（令和7年1月）によるものです。
なお、平成7年に発生した阪神・淡路大震災について、当時の30年以内の地震発生確率は「0.02～8%」だったとのことです（後の計算による数値）。このことから、上の2つの想定地震の発生確率が極めて高いということが分かります。

水害・土砂災害

気象庁の資料によると、日本の年平均気温は、100年当たり1.19℃の割合で上昇しています。また、1時間降水量80mm以上の猛烈な雨の年間発生回数も、増加しています。

地球温暖化の進行に伴って、大雨や短時間に降る強い雨の頻度はさらに増加すると予測されています。台風や豪雨による水害・土砂災害発生危険性は、年々高まっているのです。



火山災害

長野県内及び隣接県との県境付近にある活火山のうち、右の図に示す7火山については、火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山（全国50火山）として、気象庁が24時間体制で常時観測、監視しています。

火山周辺で暮らす皆さんや登山を楽しむ皆さんは、火山が噴火した場合に備えて、それぞれが正しい知識を持ち、火山情報を集める必要があります。



防災ダックのまとめ

年々激甚化する風水害。みんなの記憶や想像を超える災害が起こる日は、すぐそこに迫っているかもしれない。
また、地震は過去同じ場所で繰り返し発生しているんだ。次の地震は、明日かもしれない。みんなは、その準備ができているかな。

